

## 令和5年度第2回徳島県総合教育会議 会議録

日時：令和5年8月31日（木）10：00～11：10

場所：徳島県庁3階 特別会議室

### 1 開会

（司会進行）

＜岡島局長＞

本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから令和5年度第2回徳島県総合教育会議を開催いたします。なお、当会議の議事内容につきましては、後日、県のホームページより公表させていただきます。ICレコーダーにより録音させていただくことを御了承いただきたいと思っております。本来であれば本日御出席いただいております方々を御紹介させていただくところでございますが、時間の都合によりまして、別添の名簿と配席図での御紹介とさせていただきます。それでは、まずはじめに後藤田知事より御挨拶を申し上げます。

＜後藤田知事＞

御挨拶はもう2回目なので、割愛させていただきます。皆さんの御議論をしっかりと拝聴したいと思っておりますので、それでは、しっかりと議事を進めさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。今日はありがとうございます。

＜岡島局長＞

それでは、ここからは後藤田知事に進行をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

### 2 議事

（進行）

＜後藤田知事＞

はい、ありがとうございます。まずですね、事務局より今日、御議論いただきます、(1)「次期徳島教育大綱素案」これにつきましてですね、説明をさせます。その後、皆様方の御意見を頂戴したいと考えております。それでは事務局から御説明をお願いします。

#### (1) 次期「徳島教育大綱」(素案) について

(事務局より、資料1及び資料2に基づき概要説明)

#### (2) 意見交換

＜後藤田知事＞

ありがとうございます。それでは、議事の(2)意見交換に移ってまいります。「次期徳島教育大綱素案」につきまして、皆様方からお願いしたいのですが、それでは横田委員から順番にお願いできればありがたいと思っております。

### <横田委員>

横田です。どうぞよろしくお願ひいたします。

先ほど事務局から御説明がありましたように、「未来を拓く力を育む教育」、「個性を活かし、確かな学びを育む教育」、「全ての人の可能性を引き出し、多様性を育む教育」などが掲げられており、色々網羅された内容だと思いますが、これは大綱ということで理念的な内容が多いので、言葉の一人歩きにならないようにしなくてはいけないと思っております。

その上で、私からは2点ほど、意見を言わせていただきます。

まず、当社では社員教育の柱として、理念研修を行っています。トップから会社の経営理念や方針の説明、そして古きを訪ねて新しきを知るという温故知新、当社の場合、異業種展開をしておりますので、異業種間とか事業所間、世代間のメンバーを集めまして、異業種交流で研修を行っているのですが、創業当時にいらっしゃった方とか、それから在職中に活躍されたOBの方をお招きして、先人との思い出とか、その時に取り組んだこと等について、お話しいただいております。コロナ渦で中断しておりましたけれども、非常に効果があるように思います。そこで、教育大綱の次には、教育振興計画ということで施策が発表されるわけですが、県内の学校、小中高等学校ともですね、百年を超える歴史のある学校がほとんどだと思います。そういった中で、もうすでに各学校で実施されているかもしれませんが、温故知新として多様な時代に、卒業生を招いて交流し、意見交換することで、生徒の地元に対する愛着や印象作りにつながってくるんじゃないかと考えています。偉人や立派な成功者もいらっしゃると思いますが、そうではなくて、地域で農業経営をされている方、伝統工芸を継承されている方、現代の名工、それから地域を愛し、地域とともに歩み、自分が苦勞したこと、果たせたこと、果たせなかったことなどを、分かりやすく説明をしてもらい、子どもたちに発信してもらえばどうでしょうか。子どもたちの記憶に深く残るはずだと思います。

2点目は、キャリア教育についてです。現在は少子高齢化と言われ、一方で人生100年時代とも言われ、各企業においては社員の採用から、定年後の就職、こういったところまで対応を進めなくてはならない状況で、私どもにおいても大きな課題となっています。各企業においては、今以上に環境適応力がある人が必要となってきます。環境の変化に適応できるよう、必要に応じて自分の仕事というのを選択できるような能力を磨いていく必要があると考えます。具体的には、将来を担う生徒に職場体験や研修を通して職業観を育成するという事で、企業側では、高校生に対して、インターンシップや、また職場や施設の見学、講師派遣、仕事の体験を行っています。学生数も非常に減少している中で、生徒が本当に自分の望む意思で就職し、入社した後のミスマッチとか早期離職を防ぐためにも、体験をしていくことが必要ではないかと思っております。そこで、中高生の職場体験とか研修について、県内はどのような状況であるのかということ、もし分かれば教えていただきたいと思っております。以上です。

### <後藤田知事>

ありがとうございます。先ほどの横田さんの御質問に対して事務方から答えられることございますか。先ほどの中高生の話。

#### <生田教育次長>

教育次長の生田でございます。

中学校では、各学年で職場体験を実施しております。生徒が主体的に、企業さんなどと連絡を取り、調整しまして、期間を決めて体験をします。例えば、地元のパン屋さん、また保育所や幼稚園で職場体験をする機会もあります。様々な形での職場体験学習を総合的な学習の時間等を活用して実施しております。以上でございます。

#### <中野教育次長>

教育次長の中野でございます。

高等学校でもインターンシップは、非常に重要な機会と考えておりまして、コロナ禍の前は、全ての学校で取り組んでおりました。コロナ禍で、企業や学校の事情により、半分ぐらいまで減りましたが、現在はまた元に戻りつつあります。以上でございます。

#### <後藤田知事>

ありがとうございます。これについてはまたですね、教育委員会さんのほうで、いつから、どの範囲で、年にどれぐらい、そういったものの資料、まとめて委員の皆さんに後で共有していただければと思います。よろしいでしょうか横田さん。

#### <横田委員>

はい、ありがとうございます。

#### <後藤田知事>

それではじゃあ岡本委員さんお願いいたします。

#### <岡本委員>

失礼いたします。過去に教育現場にいた者として、現在も教育現場に近い者として意見させていただきたいと思っております。大綱にある趣旨については、大いに賛同するところです。しかし、横田委員の御意見のとおり、これがお題目に終わらず、現実的に実効性のあるものに深めていかなければいけないと強く感じております。近年、少子高齢化が進み、先日も出生率が過去最低になったと聞きました。ということは、10年後、20年後には全国的に若者が少なくなってしまうということで、徳島県は特に厳しい状況になるのではないかと思います。学校でも休校や閉校が多くなり、学級数も減っている状況にあると思っております。このままでは若者が減り、多くの市町村で過疎化が進んでいく。この大綱の中にある、未来社会の創り手を育成していくのは、教育しかないと思っておりますので、やはりここを改善していくのは教育の力ではないかと思っております。魅力のない徳島と言われて久しいですけども、それではいけないと思っております。徳島には徳島にしかない魅力があり、たくさん宝物がありますので、それをいかに教育活動の中に活かしていくかということが大事かと思っております。私たちの頃からの、学力とか偏差値だけで中央のネームバリューのある大学へ行き、そして都会へ行くという傾向が今も改善されていないように思いますが、やはりもうそういう時代ではなく、本当に地域の良さを継承していく、輝きを創っていく子どもを

育てていくことが地域にとって本当に大事なことではないかなと思います。現在も魅力化推進事業で高校生がいろんなことをしており、少し前には、ロボコンのことで島委員も新聞に載りましたが、また他にも地域と関わって様々な活動をしていると思います。でもそれが本当に継続的で、本当に子どもたちが参画しているものなのかということ、やはり学習活動の一環として形骸化している部分もあるのではないかなと思っています。私は、10代の子どもの力は、大人の準備段階ではなく、十分に力がある人材と思っています。今は10代で活躍している人たちもたくさんいます。そういった子どもたちを地域の産業、文化、企業、自然などや、また先ほど横田委員がおっしゃったように、地域の人とか地域の様々な活動に本気で関わらせるという、地域に参画する教育活動を本当に真剣にやっっていかなければならない時代ではないかなと思っています。もちろん、学力をつけて中央へ行って世界へ羽ばたいてということも大事です。しかし、けれども、子どもの時に地域で学んだことは、大人になってからもきつと役に立つと思ひまして、世界から徳島を見る人間を育てることも大事かと思ひます。何のために学ぶのか、そして何を学ぶのかということ、今、大胆に考えなければいけない時かと思ひます。豊かな教育活動をして、徳島に来れば、こんな教育活動があるんだと人を呼び込めるような、それこそ海外からでも見に来て、徳島に住みたいと思わせるような教育活動ができればと思ひしております。大綱に関して一つはそういうことです。

もう一つは、私は教育現場に近い者として、深刻な教員不足の訴えを間近で聞いて、苦しい思いをしています。県内のいろんな学校で教員が足りなくて、本当に疲弊した状態にあります。退職した方が再任用で来られるけれども、本当に戦力になるかということ、やはり時間が短かったりとか、担任ができなかったりするような状況の方もおり、若い教員が士気を高めるには至らない、失っているような状況があると聞いています。一学期で既に3人もの教員が足りなくて、もう何度も何度もお問い合わせをいただく学校もあります。先ほど豊かな教育活動と申しましたが、教員がいなければできないことですので、教員をどうにかして確保していくことが大事かと思ひます。意見一覧の中にも、定額働かせ放題という言葉が見られましたが、本当に教員がそういうふうに言われており、持続不可能な教育界だと言われているような状況も感じて、本当に危惧しているところです。改善に向けて2点、私の考えを申し上げますと、1点目は教員を目指す大学生、大学院生が、私の身近にもたくさんいます。今取り組まれている状況だと思ひますが、そういう人たちをインターンシップとして、実際の労働力として活用するような大学側の教育や、学校側の姿勢が必要ではないかと思ひます。例えば、県外から徳島県に来てインターンシップをした場合に、やはり優秀な学生であれば、その人を徳島県で採用していく、何か採用に当たってポイントが付くようなシステムがあり、県外からも徳島の教員になりたいと思わせるような制度も必要かと思ひます。もう1点は、定数改善です。教員の定数は国で定められていて、もう長い間変わっていないと思ひます。感染症があった時に、担任が休んでも誰も代わりがないとか、それから産育休は1年、2年も休むことが分かっているのに、正規の教員ではなく、臨時の教員しかあてがわれないという、そのような定数はやはりおかしいのではないかと思ひます。また、今は特性のあるお子さんたちもたくさん通常の学級におられて、そこで対応に苦慮している先生も多くいますので、そこにヘルプがあったりとか、教員が充足していたら、もっと豊かな教育ができると思ひます。育休を取るにあ

たっても、女性の教員は気が引けて妊娠することさえ憚られるということも聞きます。男性が育休を取る時代なのに、男性の教員にあっては更に厳しい状況かと思えます。本当にゆとりを持って子育ても人生も豊かにできるような教員の世界であってほしいと思えます。先ほどの件と重ねまして、豊かな教育活動が行われて、徳島で教員をしたら楽しい教員生活が送れ、それでまた徳島に来るといふ、好循環が生まれるような制度をぜひ実現していただきたいと願っています。以上です。

#### <後藤田知事>

ありがとうございます。これ今、岡本さんからあったですね、このたたき台、今日はたたき台ですから、これはあくまで大綱素案ですから、このいわゆる教員の方々の人材の確保というのはこれ事務局はこれどこ見たらいいんですたっけ。この「求められる人材」というのは、これは子どもたちなんでしょうけれども。

#### <事務局>

重点項目Vのところ、教員の働き方改革の関係を含んでいるということです。

#### <後藤田知事>

どこを読めばいいの。5番目、「地域・家庭・学校が連携し、」のところ、この4行のところのどれを読めばいいの。

#### <事務局>

「教員が子どもたちと向き合う時間を確保する働き方改革を実現し、」というところで。

#### <後藤田知事>

ですからここをですね、もっと今岡本委員の話があったようにですね、しっかりもっと膨らませていくというか、冒頭に「徳島ならでは」ってここはもうせつかく言っているわけですから。私も国会議員やっていたからわかりますよ。それは文科省のいろんな縛りもありますね、私からすれば文科省の言われるままにやったらね、学校の先生も休む暇なくなりますよ。だいたい政治家がぶち込んでくるんですよ。これやれあれやれつつってね。私もそのプロセスはよく存じてますんで。「ならでは」という言葉の具体策、さっき横田さんもお話あったし、岡本さんも、この後、委員の皆様にも共有しますが、この意見募集の4番目の30代の方、「ここにある大綱の方針はそのとおりだと思います。ただし、もっとも難しいのはその方策です」と、これに尽きると思うんですよ。ただこれ事務局、すみません。大綱素案を今議論する、たたき台、そこから大綱、そして方策、ここのプロセス、ちょっと簡単に時系列的に説明してもらえますか。

#### <事務局>

今後なんですけれども、今回、教育大綱の素案ということでお示しさせていただきました。今日の御意見をお伺いしまして、改善できるところ、入れ込むところがあれば入れ込

んでいきまして、最終につきましては、パブコメを実施しまして、最終は来年の2月頃に完成させたいというふうに考えています。

方策につきましては、教育委員会のほうで教育振興計画を作ります。これは並行して作業に入っておりまして、この秋頃に一回示されるというふうに聞いております。出来上がりは大綱と同じく来年の冬頃、2月頃になる予定です。

**<後藤田知事>**

それじゃあ大綱と教育委員会さんのやっつけてというのが、並行してどういう関係になっているかをちょっと委員の皆様にご説明していただきたい。

**<事務局>**

まずこちらの大綱のほうで、大きな方針を作ります。この大きな方針に沿って、教育委員会のほうで実際の事業と計画を作っていくということになります。ですので、ここに出てきます重点項目の6項目につきまして、その柱立てに沿った形で、教育委員会のほうで計画を作っていくという形になります。

**<後藤田知事>**

方策が、我々が作ったこの大綱のあとの具対策ができるのは、じゃあ来年の秋ということによろしいですね。

**<事務局>**

中間案につきましては一度、この秋に示されます。完成が議会とパブリックコメント、それらの意見を聞いて、最終に、2月頃できるというふうに聞いております。

**<後藤田知事>**

具体策が。

**<事務局>**

具体策がそういうことです。その計画に沿って、来年の当初予算等で、反映していくという形になります。

**<後藤田知事>**

はい。ということでございますので。私のところもね、本当にこれ、このアンケート 47件といっても少ないんですよ。ぶっちゃけもっと来ている、というよりもっと拾わなきゃいけない。私のメール、ラインには何百件も来てますんでですね。例えばもう、いろんなところで聞くのはね、今の高校だと、何が何でも国立に行かせようとする先生がいるっていうんですよ。岩手だ、地方だでも。これ一体どういう指導、誰の権限のもとにその現場の先生はやっているんだっていうね。こんなのもね、ちょっとやっぱり確認しなきゃいけないと思うんですよ。その現場の先生も誰の指示でどうなっているのかな、みたいなのも。これ先生方聞きませんか、こういう話。なんか国立志向みたいな。こんな話は

もう死ぬほど入ってきますので。だからこういうこともちゃんと一つ一つ、局長、どうですか。そこらへん聞いたことない。

#### <岡島局長>

私が高校生の時も、当時は某地元新聞に国立の多分、合格者のトップなんとかっていうのが出ていた時期もたしかあったと思いますので、その時には、まあ何十年も前ですけども、そういうような意識はあったのかなと思って。今、実は知事からの話を聞いてまだそういうのが残っているんだなというところで、そういう意味では少しびっくりしているところがございますけれども、そういうことも現に私も知りたかったところもございますので、この大綱の中にある振興計画の中に影響があることであればですね、じっくり、反映させていただきたいと思います。

#### <後藤田知事>

すみません、この後委員の皆さんの議論が活性化するために、あえてちょっとこんな、今話しましたけれども、局長ありがとうございます。じゃあ、続きまして河野委員お願いします。

#### <河野委員>

河野です。よろしくお願いします。見せていただいて、基本方針の「個性と国際性に富み」、ということで、どのように個性、国際性を富ませるのか、育てていくのか、もっと具体的に出た方がいいのかなと思います。特に、国際性というと交流、国際交流も含めて色々やっていくのだと思いますが、どのように国際性を身に付けるのかということ具体的に出した方が分かりやすいかと思います。また、「徳島ならでは」とは何なのかということもはっきり出していただいたら分かりやすいかと思います。

あと、重点項目Ⅳにおいて、例えば中学を卒業して、高校に行けなかったりする生徒もいます。以前、私が現場でいた時もそういう生徒がいました。でも、通信制の高校に通いながら高卒認定試験に合格し大学に行ったり、専門学校へ行ったりなどして、社会人として立派に活躍している子も多くいますので、そういった様々な進路について相談や紹介ができる窓口をもっと分かりやすくしたり、広げていくことがいいのではないかと思います。

それから、重点項目Ⅴで、地域・家庭・学校が連携、協働することは、本当に良いことで、やっていかなくてはいけないと思うんですけど、働き方改革を考えた時に、地域社会と繋がる時間というのは、やはり地域の方も働いているので、休みの日であるとか、夜遅くになってしまうのではないかと思います。そうすると、働き方改革として大丈夫なのかと少し疑問を持つところです。

また、重点項目Ⅵで、徳島は、バスケや野球、サッカーなどのプロスポーツや、また陸上もセミプロみたいな感じで盛んだと思います。また文化の方面も含めて、故郷から出ている有名人や活躍している人はたくさんいると思いますので、そういった人たちをもっと紹介したり、PRしていきることができればいいのかなと思います。例えばバスケのアカツキジャパンでは、県人2人も活躍していますけど、子どもたちの目標や、憧れになるような人材はたくさんいると思うんですね。具体的な方策のほうになるかもしれませんが、

そういう人材をもっと紹介していくことができればいいと感じています。私からは以上です。

#### <後藤田知事>

ありがとうございました。本当に今、河野委員からお話が出たように、そのためにさっきちょっと私が確認したんですが、いわゆる大綱とですね、具体策の、その間の関係ですね。私ども骨太の方針ってよく政府ではですね、出すんですよ。骨太に細かく書き入ると、よりそこは具体的な政策・予算に繋がるっていったって。昨日一日中ずっと4県知事と四国新幹線の話していたんですけど、これは実は骨太の方針に書かれたんですね。基本計画というものを調査、検討するようになるところを、初めて書かれた。それをもって我々はがっとう逃げがしちやいかんと言っていて、私がしっかり4県、他の3県とまとまろうって判断してやったんですけど。ですので、その書き方はこれ、榊さん、後からでもいいんですが、教育委員会さん的には具体的に書いてもらったほうがいいのかなのかって、どうですかね。

#### <榊教育長>

最初に横田委員さんからお話がありましたように、教育大綱は理念として、ざっくりしたもの、方向性を示すものだと考えています。先ほど、後藤田知事からも、教育大綱と教育振興計画の工程どうなんだというお話があったんですけど、まずは大綱をしっかり整備をして、その理念にあるものを項目立てとして6項目作りしましたので、そこを振興計画の柱として同時に整備をしていくと。そして来年の3月までに両方がしっかり揃うよう、足並みが揃うような形で整備をしていきたいと考えています。河野委員さんからお話があった、理念を具現化する方策は振興計画でしっかり書き込みたいと思いますので、大綱では方向性を示すような、例えば働き方改革をやりますとか、地域の担い手を育成しますというところぐらいまで抑えておいて、振興計画で具体的にどういうことするのかをしっかりと書いていきたいと考えています。

#### <後藤田知事>

ありがとうございます。今のような流れなんですけど、ただ、この大事な、非常に一番重たい総合教育会議でございますので、もう委員の方々からの意見もしっかり教育委員会さんのほうは参考にさせていただきたいし、まさにさっきの国際人材の話もですね、私、おととい、タイに行って梨田大使と夜話していたら、コロナも終わったんだから、学生の交流やりましょうよって、すごく相談を受けましたよ。どんどん来てくださいと。タイにと。「学生呼んでください、こちらもタイから行かせますから。」とか。まさに河野さんがおっしゃったですね、具体的にグローバル人材、国際化って何なのって言ったときに、留学のさらなる振興とかね、これは多少書いてもいいのかなと。こう思いましたし、アスリート云々の話も、アスリートだけじゃなくてね、文化人もですよ。柴門ふみさんなんか僕、昔家に遊びに行ったことあるんだけど、旦那さんの弘兼憲史さんとゴルフやって、その後「うちに遊びに来い。」って行ったら、いきなり「後藤田さん、私はなんか徳島の大使とかやらされてるけど、何にも頼まれてもないのよ。」って言ってね、怒ってましたよ。



だから協力したがつてるんですよ、みんなね。例えば今、名西高校では小林町長なんか漫画学科を作ったらどうだとか、そういうね、すごくいいアイデアだと思うんです。普通科高校をさらに高度化、現代の社会に合わせる。やっぱり社会と離れてしまうと何の意味もなくなってしまうと思うんですね、高等教育は。専修学校とかはもう就職率が高い。そして地元に残る率が高い。こう考えた時にですね、高校、普通科高校の高度化、専門化、こういったものも大綱の中の、どっかに言葉があったらいいなと思いますけど、これありましたっけ、これ事務方。個性を活かし、確かなところに本当は入っているっていうかね。だから今の河野さんのお話と一緒に、そこのなんていうか目出しのね、出し方の問題だと思えますが、一応参考までに。

#### <事務局>

承知しました。検討させていただきます。

#### <後藤田知事>

それでは、三木委員お願いします。

#### <三木委員>

失礼します。まずこの教育大綱を見させていただいて、すごくいい内容だと思っております。実際、中学生、高校生の子どもを持つ親の立場として感じることを申し上げますと、最近は本当に情報がすごく何でも手に入るので、ありすぎる情報に振り回されて、子どもたちがそれをちゃんと咀嚼できてないなと感じます。溢れる情報のために、かえって子どもたちの自由がなくなっているのではないかと思っております。子どもが自由に楽しく生きるということをもっと体験させてあげたいなと思っておりますが、先ほどからの話にもあります偏差値や成績に、もちろんそれも大事なことはあるんですけど、現状ではあまりにもそれに振り回されていると思っております。今、不登校がすごく増えてしまっていることも、理由の一つがそこにあるのではないかと思っております。ただ、不登校の理由を探るのも大事なんですけども、実際に増えてしまっている不登校の生徒に対する支援を、大綱の中にもありましたが、充実させてほしいということもすごく思っております。これはもう本当にすぐにも充実してあげてほしいなというのがあります。学校に行きたくても行けない、けど、勉強が遅れている焦りで、ますます空回りして、家の中でも本人や家族が辛い思いをしている状況があると思っております。コロナがあり、ちょうどタブレットが普及している中で、家で授業を受けることについても、単位として認めてあげるということを、もっとできるようにしてもらえないかなと思っております。少子化というお話もありましたが、「徳島ならでは」ということで、少子化で人口が少なくなっている現状で、逆に人口が多かったらできないことは何かという切り口で、何かを考えていくのもいいのではないかと思っております。例えば、徳島県は県立高校がしっかりしているというところも一つの強みだと思います。あと、いろんな問題で軸となるのは、子どもたちの自己肯定感を上げていくことだと思うんですが、自己肯定感は簡単に上げられるものではなく、高校生になってからやりましょうというのでは遅いかもしれません。もちろんいつからでも変えられることはできると思うんですけど、できれば幼少期からの取組ができればと思

います。また、地域との関わりというお話もありましたが、それもすべて一緒になって、少ない人口だからこそ、幼少期からの一貫した連携を取りやすいのではないかと思いますので、そういうふうな強みとして変えて何かやっていけたらと思っております。

あと、教員不足について、私もよく聞くんですけども、定数、定員というものが決まっていることも存じておりますが、他の県に比べて、教員志望の学生さんが徳島県は多いです。せっかく多いのに、定員の関係で採用できないという現実はすごく残念です。定員には入れなかったけど、すごく惜しい、ぜひ来てほしいというような方に対しては、特別枠みたいなものを地域地域での考えとしてできるようなことを、取組の中で持っていたいただけたらと思っております。以上です。

### <後藤田知事>

はい、ありがとうございます。確かにその一つおっしゃったですね、不登校対策とかは、これ重点項目のⅢということで、誰一人取り残されず、というところに入ると思うんですが、ここもですね、具体的な目出し、私も通信学校ももっとしっかり勉強するように事務方には言っています。不登校児の学校、他の県はどんどん今やっていますよ。これ、徳島どうなんだっていうこともよく聞かれますから。先ほどリカレント、学び直しの話もございましたが、やっぱりそこも具体的にもうちょっと目出しをしたほうがいい。これやっぱり皆さん、各委員さんおっしゃるように「徳島ならではの」と謳っていながら文章を読むと、他の県でも通用する話ばかりですよこれ。ですから、今、三木委員もおっしゃったように、70万人県民、そして県立が多い、受験戦争がない、こういうものをどうですね、やっていくか。ある大手の企業の社長さんが神戸からね、娘婿さんなんですけど、来られてお話ししていたら、「いやもう、神戸のど真ん中よりも本当に子供が受験勉強なく、個性を育ててくれて、もう最高の教育環境です。」って言うてくれている方がおましてね、すごく嬉しかったんですけども。こういうところも目出し、「徳島ならではの」ということの、パンチというかね、これは大綱には欲しいですよ。そこはやっぱり考えましょう、皆さんでですね。結局、人材不足についてはね、岡本委員もおっしゃったとおりで。本当ね、僕はもう他の県知事とよく会うことがあります。全国知事会、四国、中四国、いろいろ勉強します素直に。それでこの間、島根だったかな、もうね、先生の試験を変えるって言うていましたよ。いわゆる筆記だけみたいな、そんなのはもうダメで、三木委員もそのニュアンスでおっしゃったのかもしれないけれども、本当に子どもに寄り添えるけど筆記があかんから先生になれへんとか、こんなのはね、もう僕は変えるべきだと思いますよ。それが本当に「徳島ならではの」だと。僕はね。だからこの「教員不足対策します」、「ここで持続可能な地域ならではの教育活動推進します」って言うけど、これ本当に別に他の全国と当てはめても同じなんでね。もっととんがりましょうよと、私はそう思いますんでね。委員の皆様の話聞いて。すみません、私がとんがりちゃってるもんですから、いつもすみません、よろしくお願ひします。じゃあ、島委員お願ひします。

### <島委員>

お願ひします。この教育大綱は会社で言うと、理念などにあたるものかと思ひます。会社経営においても、理念があつて、これはずっと追ひ続けるものですね。それに基づいて 10

年後にこうありたいという姿があって、それに向かって3年から5年、何をやっていくかが経営方針であって、今年1年何をやるかが経営計画、1年の経営計画があるから今月はこうしていきましょうとなり、それらをだんだん積み重ねていくと、理念だったり近づいていくと。そういう考え方で経営なさっている方、かなりいらっしゃると思いますし、私が代表を務める中小企業家同友会では、そういうものを経営指針書としてまとめて社員と一緒に更新しましょう、という勉強をずっとやっております。それがよかったのか、25年連続で会員が増え、今は470名ほど会員がいますが、「徳島ならでは」とはなんぞやというのは、例えば、社内で、我が社の固有の役割とはなんぞやということを考えるのと一緒ですので、各方面で議論していくと、いろんなアイデアも出てくるかと思えます。

では、その中小企業家同友会から、前回もそうでしたが、今回も総合教育会議にあたって、いろんな御意見を頂戴しておりますので、その中から6点ほど申し上げます。

1点目は、中小企業家同友会では今、教員2年目の方々がフレッシュ研修という名称で、150人から200人ぐらい毎年いらっしゃるんですが、企業で仕事体験をしていただいております。例えば、灼熱のトマトハウスでトマトを収穫していただいたりとか、酒屋さんでバイトさんと同じようなレジ打ちしていただいたり、本当に職場体験してもらっているケースも結構あります。地域にどんな会社があるかを知る良い機会だと思いますので、もっと広げてもいいんじゃないでしょうかという意見です。

2点目は、大学や専門学校に行く費用について、現在も奨学金をもらっている方は半数以上くらいいると思います。奨学金というと聞こえはいいですけども、若年者層に借金を負わせるのと一緒なので、国も巻き込んでやらなければいけないのかもしれませんが、一部免除するとか、何かしら補助があればいいんじゃないかという御意見です。もちろん、会社、経営者としても、社員の所得を上げて、そうした奨学金に頼らなくても進学できるような体制を組むということもあるんですけど、社会全体で育てていかなきゃいけないと思いますし、次世代の負担を少しでも軽くしてあげたいというところもございます。

3点目は、社会に出て働きだすと、結果を求められるという場面がどうしてもあります。ただ、成果を出せるようになるには、長い年月の努力の積み重ねが必要となる分野もありますし、先ほど三木委員からも御意見がありましたけど、簡単に結果が見つかる、スマホで検索してすぐ取り入れられるようなものっていうのは、他の人や企業にとっても同様に簡単にできてしまいますから、それは真の競争力になり得ませんので、社会に出るまでにやっぱり若い方には、努力を継続することによって成長していくという実感を持たせて成功体験などを積みせていただきたいなど。そういう成功体験があると、社会に出てもチャレンジ精神に富み、意見も言えるようになってくるだろうと思いますので、そういった御意見があります。

4点目は、フレッシュ研修で受け入れた先生方と話をしていると、中学校とかでしたら部活の問題等々があって、毎月100時間以上残業しているケースも聞かれると。しかも無給でやっている。会社では今、働き方改革を非常に厳しく迫られておりますので、やはり月30時間以下ぐらいの職場にしないといけないんじゃないかという実感を持っています。先生から聞き取りをすると、やはり試験を作ったり採点したり、教材作ったりと、そうした結局は帰宅後の残業や休日の残業も多いのが実情だと聞いております。働き方改革というのは、経営者の覚悟がないとできないんですが、現場においては、校長、教頭、教

育委員会が覚悟を決めて実践していただきたいとの御意見を頂戴しております。

5点目は、これも同じですが「17時に教員が帰る学校を目指してほしいです。」と。毎年の新学期に学校に提出する書類をエクセルにするとかですね、今もまだ手書きベースの書類って結構あります。おそらく皆さんスマホをお持ちの方が多いと思いますから、これをテキスト化するなど、DXで効率化してですね、働く人が費やす時間を簡素化していただきたいという御意見です。

6点目は、校則については生徒の意見を尊重するということでしたが、先生方が変更を認めないという場合もあり得ると思います。校則が変わった場合や、先生が変更を認めなかった場合など、そうした校則をめぐる情報については、学校のホームページなどで公表したり、先生が変更を認めない理由が合理的だったのかどうかということ、いろんな他の方からの御意見も入るようにはいかがでしょうか。校則を変える場合でも変えない場合でも、合理的な説明がつかない部分については、教育委員会からも当該学校へ説明を求めるなどして、極力生徒の意見を尊重する形で校則が変わり、そして、とある学校の事例が他の学校の事例にも影響を与えられるような体制を組んだらいかがでしょうかという意見です。私からは以上です。

#### <後藤田知事>

はい、ありがとうございます。フレッシュ研修って先生方に社会経験をさせるっていう、これってもう教育委員会っていうか、学校の先生すべて新人研修でやってんですか。

#### <中野教育次長>

そうです。フレッシュ研修という名前ですけど、初任、1年目の先生全員が対象になっておまして、そのメンバーが2年目になってすぐ、企業さんの方で経験します。

#### <島委員>

これ、全国的にも珍しくて、あまり他にないようなんです。

#### <後藤田知事>

うん、いいじゃないですか。こういうのがまさに「ならでは」ですよ。もっとね、発信して。

#### <島委員>

3日か4日くらいですが、本当に従業員と同じように使ってくれて結構ですと言われてますし、いい経験になったとおっしゃっていただけます。BtoCで一般消費者に知られている会社さんとかは割と皆さん知りやすいんですけど、BtoBや企業間取引でやってる会社さんにも素晴らしい会社さんが徳島にはたくさんありますので、そうしたものを先生方に知っていただくのは、有意義なんじゃないかなと思っております。

#### <後藤田知事>

いや、素晴らしいですね。ありがとうございます。僕はぜひね、横田さんや島さんにお

願いたい。島さんはニュービジネス協議会の会長やられてまさにね、子どもたちに夢を  
ってという立場のトップにおられますが、やっぱり中小企業さん側もどんな人材が欲しいの  
かとか、さっき横田委員もおっしゃったんですけど、離職率の結構これ全国ね、高かった  
りするけど、僕はですね、中小企業さんの間で「同じ会社」っていう感じでね、いわゆる  
うち辞めても隣の会社、部署を移るがごとく、移れるのが徳島やと。僕、こういうふう  
にね、教育には関係ないかもしれないですけど、教育の延長線上はやっぱり社会ですから。  
あとなんかやっぱりやたら都会とか京阪神の憧れってあるじゃないですか、子どもも。い  
やそれはもう当然ですよ、ありますよ。さっきおっしゃったように、情報が過多だから。  
行きたいと思う。だけど、別にどうぞ、入社して2年ぐらひはもう半年東京行っておいで  
と、大阪行っておいでと、なんなら海外もどうぞと。僕はこれぐらひのことを中小企業連  
合会でやってもらいたいんですよ。じゃあそのための費用とか、例えばマンションとかの  
経費、県も応援しますよと。僕はそういうふうなこともぜひ、中小企業さんのほうで。

学校の先生が今ね、島さんから校則の話ありましたが、ツーブロック禁止って「なん  
で」って生徒が聞いたら、「いや、それは社会が許さないからさ。」みたいなことを平気  
で先生が言ってる話聞いて、いや、どこの社会のこと言ってんねんと。横田さんの息子な  
んかめっちゃツーブロックですよ。ごめんなさい冗談冗談。いやすごいですよ、横田さん、  
すごかったですよね、もうグァーって。いやそれたぶんね、僕に対する応援だと思うん  
ですよ。子どもたちに対する、俺ら大人でもツーブロックだけ、みたいな。まあそれはち  
ょっと、いや本当に素晴らしい方なんですけど。そこはどうですかね、これからちょっと、  
中小企業さんあたりでも発信してもらえたら。

#### <島委員>

今回の知事の発信を受けて、中小企業家同友会の中でも、会社のドレスコードはどうあ  
るべきか、また、うちの社内でも、営業とか製造で服装は変わってくるかもしれませんが、  
社員同士で話し合いするようにしていきたいと思います。グローバル化すると、例え  
ばフィリピンの方とかでしたらタトゥーが入っていることも普通だったりしますし、それ  
が今の日本社会に受け入れられるかどうかは分かりませんが、そうやって話し合ってい  
かないと、世の中の変化についていけないと思いますから。

#### <後藤田知事>

はい、ありがとうございます。それでは榊教育長さんよろしく申し上げます。

#### <榊教育長>

本当に多岐にわたる御意見をいただきまして、ありがとうございました。私の方からは、  
ポイントポイントについて、少しコメントをさせていただけたらと思います。

まず、実効性のあるものを、それから、子どもの見方・捉え方、教員不足、教員の働き  
方改革、様々御意見いただいたので、これについては、先ほど知事からお話がありました  
ように、教育大綱の中で反映できるものはしっかりしていく。そして、教育委員会とし  
ましては、その教育大綱を受け、教育振興計画の中で、実効性があるものとしての施策展開  
と、それがちゃんとできているのかという評価ができる仕組みを、しっかり整備をしてい

きたいと思います。

それからお話があった中で、まずは県の教員採用試験ですが、知事から、もっととんがっていけ、というようなことがあったんですけど、これは私どもも同様に考えておりまして、今年4月には、これまでやってなかった大学推薦ですね、大学推薦枠を設けまして、新卒の優秀な方にまず教員になってもらうことをはじめました。そして、夏に教員試験があるんですけど、教育委員さんからの意見もいただいております、ペーパーテストの中で、教員に必要な「専門性」を問うものと「一般教養」を問うものがあるんですけど、大学卒業している場合は一般教養は問わないということで、もう廃止しています。これはだいたい、どうかなという意見もあったんですけど、廃止だということで、廃止してやっています。また、試験の中身もちょっと作り替えております。さらに、知事がいつもおっしゃる「地方創生戦国時代」ということで、徳島出身で県外に出て、県外で教員に採用されている人に徳島に帰ってきていただくため、秋選考を設定して、今まで大阪や東京でやってきた教育を、徳島でこういうふうに活かしたいということをプレゼンしていただいて、その内容で採用するというような仕組みを作って、徳島の教員に戻ってきてもらうんだというぐらいの勢いで、今年度取り組みはじめたところですよ。そういう形で、とんがってやっていっているということをお話いただけたらと思います。

それから、高校生の進路選択なんですけど、保護者の方もやっぱり国公立信仰というのがまだ残っているところがあります。ただ、教員がそれを「国公立でしょ」って積極的にするような流れというのは、昔に比べたら本当に薄まっているんじゃないかと感じています。今は教員が、子どもたちの進路を応援する、実現するために背中を押すような進路指導をやっています。昔はそれこそ、腕を掴んで、「お前は東大行かなあかんだろう。」って、引っ張り上げるようなことをしていた時期もあったように聞いておるんですけど、今はそういう時代ではないと。子どもが大学で何をしたいのか、どういう勉強をしたいのかというのを、ちゃんと子どもも考えていますので、そういうことを後押しできるような進路指導をやっていただくようお願いしているところでございます。

それから、校則について島委員から、しっかり発信していくことがいいのではないかと話もありました。これは従前からお話ししているように、校則については、出来上がった姿をホームページにしっかり出すだけでなく、出来上がる過程をホームページでしっかり上げていくことも指示をしています。知事のほうには今、「校則見直しをしている過程で、意見を聞いてくれない」というような話がきているというお話もいただきます。もう少し御辛抱いただいてですね、本当に見直しの過程に瑕疵があると判断した場合につきましては、私どもも厳しく指導したいと思っています。子どもたちが議論を重ねてせっかく作り上げてきたものを、最後の最後で学校が「これはいける」「これはあかん」という弾き方は絶対しないようにということはおもう重々言っております。それは過程を見たら分かるようにしてありますので、上がってきた内容と、実際起こってきたことがかい離しているようなことがありましたら、私どもも厳しく対応していきたいと考えているところですよ。

また、教員の働き方改革についても御意見をいただきました。教員の働き方改革は総力戦だと考えています。いくつかのことをいろいろ細かく見直してやっているんですけど、決定的なものというのはないです。ただ、一昨日、文部科学大臣のほうからメッセージが

出まして、それを見ますと、できることを直ちに一緒にやるんだというようなことを言われておりましたので、これからも働き方改革、緩めることなくやっていきたいと思えます。

ちょっと時間が超過したんですけど、あと少しお時間をいただきまして、このアンケートの結果を少し見たいと思うんですが、アンケートの結果は、整理しますと20代30代がだいたい3分の1、40代が3分の1、50代以上が3分の1という結果になっています。年齢分けをしたような表ではなかったのですが、40代以下の子育て世代が3分の2ということで、かなり興味、高い関心を持たれており、教育DX、英語教育、部活動の短縮、教員の働き方改革、伝統文化、それから学区制、などについて多岐にわたる御意見いただいております。特に20代で見ますと、「故郷に誇りを持ってほしい」「次世代の徳島の開拓を行ってほしい」「自分で考えて動く子どもを育ててほしい」というのは、これからのふるさと徳島をどうすべきか、というような先を見据えた意見が出ております。知事がいつもおっしゃられているような話なので、20代の感性で知事が話されているような感じかなというふうに思っています。知事がいつも「地方創生戦国時代」、地方が選ばれる時代であるというふうに言われておりますけど、学校もまた選ばれる時代に入っていると思っています。それでどのような学校教育が選ばれるのかということをお教育大綱に示さなければならぬ。逆に言えば、大綱に示した教育を展開しないと選ばれないという強い危機感を持って教育委員会も対応したいというふうに考えています。今後、どのような時代になっても、ここに書いてあるような、「個性と国際性に富み、夢と志あふれる『人財』の育成」というのを図ることによりまして、子どもたち、徳島の未来をしっかりと育てていけたらと思っています。少し長くなりまして、申し訳ございません。以上です。

#### <後藤田知事>

どうもおまとめ、ありがとうございます。本来ね、もうこれ2、3時間位かけてやらなきゃいけない議論でありますけど、もう必要であれば何度でもやりますので、委員の皆様、また何卒よろしくお願ひしたいし、また委員の皆様は県民の代表という、そういうお立場でございますので、また委員の方々からもいろんな御意見、またヒアリングしていただいて、大綱に活かしていければと思っておりますので、よろしくお願ひします。今日はありがとうございました。それでは事務局から。

#### <岡島局長>

どうもありがとうございました。ただいまいただきました件につきましては、速やかに大綱への反映を考えていきますのでよろしくお願ひいたします。1点御連絡がございます。会議録の公表についてでございます。本日の会議録の公表につきましては、事務局で取りまとめた上、御発言いただきました各教育委員の皆様へ御確認をいただき、御発言者名を入れまして、公開をさせていただきたいと考えてございます。よろしくお願ひいたします。それでは以上をもちまして、令和5年度第2回徳島県総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。